

独立行政法人国際交流基金 契約監視委員会（令和5年度第3回）
議事要旨

1. 日時：令和6年3月21日（木） 13:30~15:30

2. 場所：独立行政法人国際交流基金 ホールさくら

3. 出席者

- (1) 委員：渡邊一弘委員長、宮本和之委員、山本裕子委員、井澤めぐみ委員
- (2) 外務省：広報文化外交戦略課 船橋外務事務官
- (3) 国際交流基金（JF）：梅本理事長、鈴木理事、平林監査室長、正野経理部長、河井会計課長、審議案件担当者

4. 主要議事

- (1) 再委託案件及び一者応札・応募案件について（報告）
- (2) 連続一者応札・応募案件3件のフォローアップ（報告）
- (3) 個別案件（4件）（審議）
- (4) 国際交流基金調達等合理化計画について（報告）
令和5年度自己評価及び令和6年度計画策定

5. 主要議事概要

- (1) 再委託案件及び一者応札・応募案件について（報告）
再委託案件4件、一者応札・応募案件6件※のうち連続一者応札・応募案件3件を除く3件について、資料に基づき事務局より報告。
※6件のうち1件は令和4年度に5年間の契約を前提とした一般競争（総合評価）を行った案件で、履行状況に問題がなければ1年毎に契約更新する前提で契約を締結した案件。

- (2) 連続一者応札・応募案件3件のフォローアップ（報告）
以下の3契約が該当。

	契約名称	契約の相手方	契約方法	契約金額	担当部署
1	令和6年度日本語能力試験電算処理関連業務委託契約	日本情報産業株式会社	一般競争 (総合評価)	141,858,058 円	日本語試験センター 試験運営チーム
2	第50回日本語パートナーズ派遣前研修 現地語研修に係る業務委託契約	株式会社パークレーハウス	一般競争 (総合評価)	2,926,000 円	関西国際センター 教育事業チーム

3	第 51 回日本語パートナーズ派遣前研修 現地語研修に係る業務委託契約	株式会社バークレーハウス	一般競争 (総合評価)	8,580,000 円	関西国際センター 教育事業チーム
---	-------------------------------------	--------------	----------------	----------------	---------------------

ア. 報告のポイント：各案件とも仕様の見直し、業者への応札の声掛け、スケジュールの見直し等の対策を行った。応札しなかった業者へのヒアリングでは、業務の特殊性から時間的にも体制的にも困難であるという意見や、単発の契約では採算が取れないのではといった懸念が寄せられた。次回入札に向けては可能な範囲で仕様の見直しを検討しつつ、引き続き周知に努め、応札者の拡大に取り組んでいく。また、複数年度や複数回での契約を検討し、業者にとっても採算性の高い契約となるように検討する。日本語能力試験電算処理関連業務委託契約に関しては、意見招請の実施も考えたい。

イ. 委員からの主な発言：取組は妥当であると判断する。

(3) 個別案件（4 件）の審議

以下の 4 契約について審議

	契約名称	契約の相手方	契約方法	契約金額	担当部署
1	2024 年度海外日本語教育機関調査業務委託契約	株式会社ブレイン	入札不調	34,154,956 円	日本語第 1 事業部 企画調整チーム
2	次世代日本研究者協働研究ワークショップ事業（第 5 回）に係る国際航空券手配及び国内接遇業務委託契約	株式会社日本旅行	入札不調	5,890,287 円	日本研究部 事業第 1 チーム
3	令和 5 年度舞台公演オンライン配信事業にかかる SNS 広告代行業務委託契約	株式会社タナベコンサルティング	入札不調	10,395,000 円	文化事業部 舞台芸術チーム
4	令和 5 年度主催公演（ASEAN・ロック）CHAI ラオス・カンボジア公演制作業務委託契約	株式会社次世代	随意契約	2,002,400 円	文化事業部 舞台芸術チーム

ア. 2024 年度海外日本語教育機関調査業務委託契約

(ア) 契約内容：2024 年度「海外日本語教育機関調査」について、調査用システム・データベースの開発（過去データ移行を含む）から、調査用システムを使った調査準備及び実施支援、調査結果の集計・分析・報告書作成・公表支援まで、3 年度分の業務を委託するためのもの。

(イ) 抽出理由：入札不調となった理由

(ウ) 説明のポイント：入札説明会には 8 者、入札には 3 者の業者が参加した

ものの、予定価格を下回る応札がなく、結果的に入札不調となった。2回目の再入札において最廉価を提示した応札者と交渉し、予定価格の範囲内で契約合意に至り、随意契約を結ぶこととなった。

- (エ) 委員からの主な発言：調査用システムの新規開発もあり、従来の契約内容とは異なっていたことがわかった。本契約で新規で構築するシステムを次回の調査でも引き続き活用する予定とのことで、次回調査時には、保守や調査実施・集計支援といったことが中心の契約になり、業務内容としてはハードルが下がって複数応札になることを期待したい。

イ. 次世代日本研究者協働研究ワークショップ事業（第5回）に係る国際航空券手配及び国内接遇業務委託契約

- (ア) 契約内容：若手の日本研究者の育成およびネットワーク構築を目的として、アジアを中心とする主要日本研究機関に所属する大学院生に対し、10日間ほどの合宿型のワークショップ事業を実施するため、参加者の日本国内滞在部分に係る接遇業務（宿泊・国内移動・食事）および海外からの参加者の国際航空券手配業務を委託。

(イ) 抽出理由：入札不調となった理由

- (ウ) 説明のポイント：3者の応札があったものの予定価格を下回る応札者がなく、入札不調となったが、その後、最廉価の入札額を示した業者と交渉し、予定価格の範囲内で契約の合意に至り、随意契約を結ぶこととなった。入札不調の原因としては、予定価格策定時に国際航空賃（特に燃油サーチャージ）の変動を考慮していなかったことが挙げられる。今後は、仕様の見直し（燃油サーチャージは実費とするなど）を検討したい。

- (エ) 委員からの主な発言：コロナ禍も明けて旅行需要が旺盛になっていることも原因として考えられるだろう。仕様書の見直し等今後検討を進めてもらいたい。

ウ. 令和5年度舞台公演オンライン配信事業にかかるSNS広告代行業務委託契約

- (ア) 契約内容：日本の舞台公演を多言語字幕付きでオンライン配信する事業「STAGE BEYOND BORDERS」を、国際交流基金のYouTubeチャンネル内で展開するにあたり、令和5年度に新たに配信する計18作品をSNS広告するための業務委託契約。映像をより多くの海外視聴者に届けるために1作品につき10万回以上の再生回数を目標とした。

(イ) 抽出理由：入札不調となった理由

- (ウ) 説明のポイント：入札にあたっては幅広く周知を行い、入札説明書の取

り寄せは 29 者に及んだが、最終的に入札に応じたのは 3 者だった。そのうちの 2 者は技術評価点の基準に満たず、残りの 1 者は予定価格を超えた入札金額だったため入札不調となった。入札不調となった原因としては、コロナ禍を経て、業者も仕事が増えてきている中で、他の民間から委託される業務と比較すると、本契約はそれほど大きな規模ではないというのが 1 つとしてある。また、委託業務の中に広報用の動画作成を入れていたが、こちらがイメージしているよりも手間のかかる動画作成を想定していたようだった。次回以降は、仕様書内にも詳細を記載するようにして、業者との認識のずれがないようにしたい。

- (エ) 委員からの主な発言：広報用の動画作成については、JF と業者が想定していたものの間にギャップがあったということだが、説明会を実施するとよりコミュニケーションが円滑になり共通の認識も得られるのではないかと。より多くの業者を入札に繋げるためにも良い手段かと思う。

エ. 令和 5 年度主催公演（ASEAN・ロック）CHAI ラオス・カンボジア公演制作業務委託契約

- (ア) 契約内容：日 ASEAN 友好協力 50 周年事業として音楽公演を行うべく、海外事務所からの要望を踏まえ、邦楽・アニメソング・ロックの各音楽グループを派遣。本契約は、ロックジャンルとして、CHAI という女性 4 人組バンドがラオスおよびカンボジアへ渡航し、公演を 3 回、交流会を 2 回実施するツアーの企画制作業務。具体的には舞台公演企画制作業務や映像素材制作への協力及び著作権処理等。
- (イ) 抽出理由：選定理由の確認
- (ウ) 説明のポイント：海外事務所からは若年層を中心に盛り上がることでできるポップな音楽バンドの派遣希望があり、過去に派遣実績のある音楽事務所等にアーティストの推薦を依頼したり、ジェンダーバランスや予定が確保できるか等の条件を鑑みたりした上で選定。海外での活動経験の有無（特にアジアでの活動についてもポジティブに捉えてくれるか否か）も考慮した。
- (エ) 委員からの主な発言：今後もこのような事業のニーズが高まっていくことが予想されるので、アーティスト派遣のノウハウは JF にとっても重要かと思う。アーティストの選定に関しては、引き続き過程を透明化することを念頭に置いてもらいたい。なぜこのアーティストを選んだのか、対外的に説明できるようにしておくことが重要だろう。

(4) 調達等合理化計画(令和5年度自己評価及び令和6年度計画策定)(報告)
JFが年度毎に調達等合理化計画の策定及び実施後の自己評価を行い、契約監視委員会による点検、公表するプロセスを説明。雛形に沿って、契約状況及び分析、一者応札・応募状況、重点的に取り組む分野、調達改善・事務処理の効率化、調達に関するガバナンスの徹底等について、現時点での令和5年度自己評価案及び令和6年度計画案を書面にて報告。委員からの質問はなし。

以上